

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

<b>自治体提示の地域課題名</b> (注1)	No.	<b>自治体提示の地域課題名</b>	<b>自治体名</b>
	- (事務局用)	「室蘭が好き。」を増やして、みんなで住み続けたいまちを創る	室蘭市
<b>チームがつけたアイデア名</b> (公開) (注2)	自治会・町内会のデジタル化推進 (地域による地域のための新たな情報共有)		

(注1) 地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

### 1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

<b>チーム名</b> (公開)	Code for Muroran		
<b>チーム属性</b> (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	1	
<b>メンバー数</b> (公開)	3名		
<b>代表者</b> (公開)	川口陽海		

**【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

#### <応募内容の公開>

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

#### <知的所有権等の取扱い>

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

#### <チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

**アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認** **確認後 OK なら右に○印を記入➡○**

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいても結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして**解決したい課題のポイント**はこれです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

室蘭市内の自治会・町内会（以下、自治会）は加入数、加入率ともに減少し、高齢化により役員の担い手不足、さらに若い世代の新たな活動者が確保できない課題がある。負担軽減を図るとともに、若い世代により自治会を身近に感じてもらいながら、自治会のイベントや活動に参加してもらえるような新たな情報伝達、情報発信を検討する。

<以上の課題解決のために**「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください**> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

現状で、室蘭市内の自治会で最も活用されている情報伝達手段は「回覧板」です。回覧板に市役所やその他機関からのお知らせ（紙）を挟み、自治会内のグループ（班）ごとに隣の家へ届けます。

ここでの課題は

- ① 最後の家に届く頃には終わっているイベント等がある
- ② 月1回程度のお知らせのため、翌月のお知らせをしても実際に地域活動（清掃や花壇への花植えなど）をお知らせしても、覚えてもらえていない
- ③ コロナ禍以降、多くの方が触った回覧板に触れたくない
- ④ 役員ではグループごとの回覧板に各通知文を挟み込む作業がある

といった点があります。

そこで提案したのが、【LINE 公式アカウントを使用したデジタルツールでの情報伝達の導入】です。

LINE を採用した理由は

- 多くの地域住民、とりわけ高齢な方でも利用している方が多く、新たなアプリケーションをインストールしなくても良く、普段から使用しているツールであること
- ノーコードで利用でき、役員側（情報発信者）も操作が比較的容易である

導入に向けて意識したこととしては

- 複数のツールを使わず、できるだけ1つのツール・サービスに絞る（役員側の負担軽減）
- 可能な限り予算はかけない（自治会費への負担軽減）
- 簡単な構成にし、他の自治会への横展開も視野に考える

これらの理由から、LINE 公式アカウントでの情報伝達を提案します。

モデル地域となる自治会役員にデモを使ってもらいながら、意見を伺いつつ、当該自治会のニーズにあったメニュー構成などで構築します。

サンプルは以下のサイトに掲載しています。

<https://ja.localwiki.org/mr/%E5%AE%A4%E8%98%AD%E5%B8%82%E7%94%BA%E5%86%85%E4%BC%9A%E3%83%87%E3%82%B8%E3%82%BF%E3%83%AB%E5%8C%96>

本取り組みは「構築・その後の操作支援：Code for Muroran」「自治会員への周知、日常的な情報発信：自治会役員」の役割分担で運用していく。構築だけではなく、Code for Muroran では継続した支援を実施。

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

2022年にモデル地域としてLINE公式アカウントを導入した「知利別テラストウン自治会」を例に紹介します。



①回覧板（従来、紙で回覧していた文章を市役所で Web に掲載してもらう）

②広報むろらん（紙で配布されている広報紙を Web で閲覧する）

③総会（総会の表決を LINE 上で行う）

④ごみ収集（ごみ収集日のお知らせを行う）

※ポイント：市で行うごみ収集は市からもお知らせしている。ただし、自治会で実施している廃品回収（古紙回収）は市からは通知されないため、自治会で案内する必要がある。

⑤防災情報（避難所や当該自治会のハザードマップを閲覧できる）

※ポイント：避難所検索は市ホームページなどでも行えるが、該当地域を選んで、そのうえで避難所を確認する必要がある。該当の自治会が対象となる避難所のみを表示することで、万が一の際に避難所確認が即座に行える。

基本的に、変更頻度が低い情報はメニューから都度確認できるようにする。また、随時お知らせする地域活動等や注意喚起などは一斉配信にてお知らせし、周知する。（メニューは自治会の要望に合わせて設定する）

⑥個別連絡（個別連絡用の LINE 公式アカウントを用意し、チャットにて会員から役員へ個別に連絡、相談ができるようにする）

※ポイント：情報伝達はデジタルを活用することで簡素化するが、個別連絡を可能とする。従来の対面や電話などの連絡は敬遠される。わざわざ役員を訪問したり、電話は行わない。手元のスマートフォンで気軽に相談できるようにすることで、心理的なハードルを下げ、役員への相談、連絡がしやすくする。自治体内のコミュニケーションを醸成し、よりよい自治会活動へつなげる。

自治会役員の会議体では「アナログとデジタルをうまく活用していかないと世の中が殺風景になってくる（令和 4 年度第 2 回室蘭市町内会・自治会活性化推進会議会議録から抜粋）」との意見もあった。

個別相談を可能にすることで、なかなか今までは自治会に相談ができなかった人も、相談しやすい媒体を用意することで、より自治会が身近に感じてもらえると思います。



運用後は、市内で熊が出没し、モデル地域の近くで熊が目撃された。

市役所で「熊出没確認マップ」を公開したため、会員の関心の高い情報として、即時にメニュー修正し、確認できるようにした。

その後も、近隣で熊の出没情報があれば、即座に会員へお知らせし、地域の会員に寄り添った情報伝達を行っています。

自治会の情報伝達のすべてを LINE に移行できる訳ではなく、回覧板（紙）との併用となると思います。ただ、より地域活動へ参加してもらうための +αとしての新たな情報伝達方法として提案します。

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

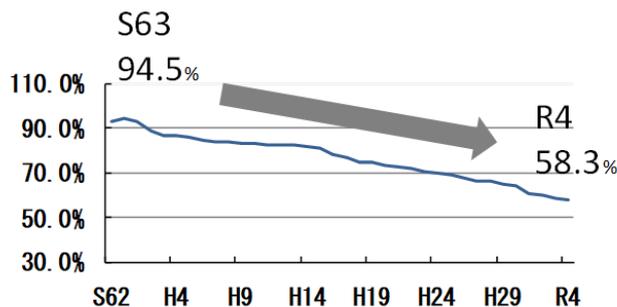
### (2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

#### 室蘭市の自治会加入状況



（出典：室蘭市町内会・自治会活性化基本方針）

自治会への加入率は昭和63年の94.5%をピークに減少しており、令和4年度は58.3%（△36.2%）となっています。

室蘭市内全世帯数：44,280世帯

自治会加入世帯数：25,829世帯

#### 室蘭市の自治会の現状

（出典：室蘭市町内会・自治会活性化基本方針）

- ① 若者世代やアパート・マンション入居者等の町内会離れが進んでいる
- ② 会員の高齢化や役員のなり手不足などにより担い手が固定化し、負担が増大している現状にある
- ③ 長引くコロナ禍で町内会活動の中止・自粛を余儀なくされ、組織内のコミュニケーションや連携が不足し、以前のような活動の再開に不安の声がある

①については、独身者が増えていることも要因だと考えられる。独身者よりも既婚者の方が加入する傾向が高いため、加入率にも影響しています。

②は市内高齢化率38.0%（令和3年度）と年々上昇している。高齢化率が高い地区ほど自治会加入率が高く、高齢化率が低い地区ほど加入率は低い。高齢者の方が自治会加入する傾向にあり、若年層の加入が進んでおらず、自治会活動を行う活動者の減少に影響しています。

（高齢化50.7%の地区は加入率63.0%、高齢化34.5%の地区は加入率48.3%）

③コロナを機に接触を避けたコミュニケーションの検討が求められています。

これらの現状を踏まえ、デジタル技術により、情報の発信やコミュニケーションの促進、負担軽減した活動への転換として、本アイデアの「LINE公式アカウント」などの自治会活動のデジタル化が必要となると考えています。

#### 町内会へのアンケート結果（令和4年度 町内会・自治会に関するアンケート調査）

##### ●現在のデジタルツールの活用状況

活用していない 79.6%、電子メール 10.2%、LINEなど汎用的なアプリ 7.4%

※ただ、役員間でのやりとりに限られている

## ●デジタル化が有効と考える取り組み

災害時における安否確認 55.6%、電子回覧板 34.3%、イベント等の出欠確認 31.5%

※電子回覧板、イベント等の出欠確認を対応できるように検討

## ●デジタルツールの今後の活用

予定なし 68.5%

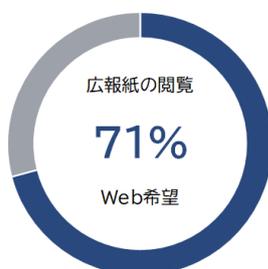
## ●デジタル化を推進する場合の課題

住民の多くが操作に不慣れ 80.6%、デジタル機器を保有していない住民が多い 71.3%、

人材を見つけるのが難しい 51.9%

## 令和4年度モデル地域の住民へのアンケート

モデル地域「知利別テラスタウン自治会発起人会」54世帯（20～40代が多い新興住宅地）



広報紙は従来、自治会で配布していたが、WEBでの閲覧で良いとの回答が71%でした。



回覧板のデジタル化は96%が希望しています。

意見として「新興住宅地であり、働いている世帯がほとんどで回覧板を回すのがつらいという声も聞こえてくる」（令和4年度第2回室蘭市町内会・自治会活性化推進会議会議録）

自治会活動での情報発信などについて、デジタル化の意見がある一方で、自治会との意見交換では高齢者世帯へのサポートをどうするか、デジタル機器への抵抗感がある方へ、どう支援するかは課題となってくるとの声があります。

現状では、従来の回覧板を運用し、デジタルツールとの併用が現状では良いと考えています。

月1回の回覧板では

- 月1回でのお知らせで翌月の自治会活動（イベントや清掃活動など）は忘れてしまっていて、活動しているくれる方、参加者が集まらない
- 回覧に時間がかかり、回覧板が届いたときには、イベントなどが終わっている

といった課題があり、LINE公式アカウントなどのデジタルツールにより、必要なタイミングで自治会員へ情報をお知らせすることは効果的であると思います。そのため、デジタルツールを利用可能な世代であり、現状では自治会活動に参加が少ない若年世帯をターゲットとし、デジタルツールでの情報発信を検討していくことを、自治会へ提案しています。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

#### 1. 実現する主体

##### ●Code for Muroran

- ・【導入前】自治会デジタル化に向けた助言  
複数回の意見交換、ミーティングを実施し、デジタル化に向けた助言を行います。
- ・【導入前】プロトタイプ構築・本番用構築  
検討する役員向けに参考となるプロトタイプを構築し、動作確認やどのような設定にするかを検討していただき、そのうえで自治会員へ公開する本番用を構築します。
- ・【導入前】運用方法・操作説明会  
運用する担当者（役員など）への操作説明会を実施します。
- ・【導入後】導入後の運用支援  
稼働後の運用にあたり発生した疑問への対応や、効果的な活用の助言、設定変更の支援を行います。
- ・操作説明会の開催など市内での更なるデジタル化実施自治会を拡げる活動  
実施事例である LINE 公式アカウントの体験会を実施するほか、自治会で検討するための資料や動画作成を検討しています。

##### ●室蘭市（生活環境部地域生活課）

- ・モデル地域の選定  
市内の町内会・自治会からモデル地域を選定します。  
「町内会・自治会デジタル化推進モデル事業アドバイザー」として、Code for Muroran に依頼いただきます。
- ・「室蘭市まちづくり活動支援補助金・行政提案型協働事業（町内会活動デジタル化のサポート）」  
協働事業として、Code for Muroran に活動支援を行っていただきます。

##### ●自治会

- ・【導入前】デジタル化に向けた検討  
役員内にてデジタル化に向けた検討をしていただき、Code for Muroran とのミーティングを実施いただきます。
- ・【導入前】自治会員への周知  
デジタル化について会員へお知らせいただきます。
- ・【導入後】情報発信などの運用など  
日常的に行う情報発信の運用や問い合わせ対応を行っていただきます。（疑問点があれば、都度、Code for Muroran に問い合わせ）

## 2. 実現に必要な資源

**人材**：自治会内にデジタル化した際に運用していける人材が必要です。（最大の課題となります。）

高齢者が多い地区だと非常に難しく、導入には大きな障壁となります。

R4、R5でのモデル地域には比較的若い方がいたために導入に向けた活動が行えています。

今後の展開としては、若い世代の役員がいらない場合は、自治会での役員候補者を見つけていただく必要があるほか、Code for Muroranでの操作説明会を実施していく必要もあると考えています。

**モノ**：アプリとしては一般的に低予算で利用可能なノーコード・ローコードツールを活用することを想定します。

物品としてはパソコンまたはスマートフォンがあれば運用可能な方法を検討しています。スマートフォンだけの運用であれば、多くの方がスマートフォンを所有しているため、追加での物品を用意しなくても問題ありません。

**カネ**：LINE公式アカウントについては、導入時は無料プラン内での運用方法を検討しています。ただ、運用して行く中で、現状の無料プランでは無料メッセージ通数が200通/月であり、小まめなお知らせをする場合、世帯数によっては無料プランでは運用できないことが想定されます。有料となる場合は、自治会費で支出する必要があります。

（ライトプラン：5,000円/月）

## 3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

## 令和5年度スケジュール

6月 町会長懇談会にて事例発表（室蘭市・Code for Muroran）

7月 モデル地区募集（室蘭市）（まちづくり活動支援補助金募集開始）  
モデル地区選定

9月 モデル地区決定（室蘭市）（Code for Muroranへアドバイザー依頼）

10月～ Code for Muroranとモデル地区自治会で意見交換（3～4回程度）

①事例紹介、自治会活動の現状ヒアリング

②機能・設定内容の方向性検討

③プロトタイプを操作したうえでの機能検討

（自治会役員間で機能修正箇所を検討し、Code for Muroranへ連絡）

④機能・設定決定、操作説明会

翌年3～4月頃に稼働開始

